

STAGE+を楽しむ(195)(HP 収載)  
—アバドのブルックナー交響曲 7 番—

1. 始めに

前報(194)に引き続き、STAGE+のアバドのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

STAGE+のアバドのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏を選びました。

今回はアバドが指揮するブルックナーの交響曲第 7 番

ルツェルン音楽祭 2005

収録日: 2005 年 8 月 10 日

魅力的なプログラムの数々で話題を集めた 2005 年のルツェルン音楽祭ですが、マーラーの交響曲第 7 番と共にこのブルックナーの交響曲第 7 番も聴き逃せません。演奏されたのは、1990 年代にクラウディオ・アバドがウィーン・フィルとドイツ・グラモフォンに残したブルックナー交響曲のシリーズ録音と同様のノヴァーク版。ここではルツェルン音楽祭管弦楽団にゆったりとスケールを大きくエモーショナルに歌わせているのが印象的です。日本ではアバドを追悼する企画として 2013 年の音楽祭プログラムとセットでこの映像もテレビ放送されて反響を呼びました。

演奏:

ルツェルン祝祭管弦楽団

指揮:

クラウディオ・アバド

曲目:

アントン・ブルックナー 交響曲第 7 番ホ長調



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

本年はブルックナー生誕 200 年ということで、演奏会やアーカイブの公開が続いています。

今回は、そのようなアーカイブからアバド指揮ルツェルン祝祭管弦楽団のブルックナーの交響曲第 7 番を試聴します。

ブルックナーの交響曲第 7 番は、ハイティンクの引退記念のベルリンフィル公演のダイレクトカットティング盤があり、LINN LP-12 の再構成(37)でも報告しました。このアバド指揮ルツェルン祝祭管弦楽団も、配信でありながら、この曲の爽やかな弱音から重層的で複雑な音の構成の、この曲を細部に至るまで緻密に表現していることに変わりはありません。



### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、アバド指揮ルツェルン祝祭管弦楽団の配信でありながら、この曲の爽やかな弱音から重層的で複雑な音の構成の緻密な表現が伺えました。

以上